

第45回 高橋記念賞

高橋記念賞は、故高橋愛次氏の功労を記念し、扶桑軽合金株式会社（現 株式会社アーレスティ）より寄贈された基金により、軽金属铸件、ダイカスト、展伸材、二次合金および再生地金等の溶解・鑄造に関連する工業技術の進歩発展に功労のあった技能者に贈る。



尾崎 幸雄 君
(マツダ株式会社)

尾崎 幸雄 君は、1990年の入社以来27年間アルミダイカストの製造に携わり、溶解・鑄造・熱処理・完成検査に至る一貫したプロセスに関わる技能を高め続けている。13年間はダイカストの鑄造現場の第一線で、生産活動もさることながら設備・金型故障対策など生産性向上を通じて標準作業票や設備管理基準書などの整備、製造原価低減に大きく貢献してきた。2004年からは職場の長としてロータリーエンジンの新製品立ち上げに携わり、生産技術部門との協働、現場メンバーの作業育成など量産を成功裏へ導いた立役者である。この過程で培ったダイカストの基礎知識・技能は、部内メンバーのみならず部門を超えた他工場のメンバーにも指導できるインストラクターレベルにある。また同年からマネジメント業務にも携わり、自らダイカスト鑄造法以外の経験のない作業へも積極的に挑戦し、技能を習得して率先垂範を意識して、作業者と心の通ったコミュニケーションを取りながら品質のポイントや作業の安全性を教えていく過程で信頼感が醸成され、若手育成のスピードアップにつながった。近年では国家技能検定受験に向けた実技訓練の場で一般の方や地域の高校生も含めてインストラクターとして技能伝承する等、地域活動にも貢献している。



中村 和也 君
(株式会社神戸製鋼所)

中村 和也 君は、1992年に株式会社神戸製鋼所に入社以来、一貫してマグネシウムやアルミニウムなど軽合金の砂型鑄造品の製造に従事してきた。主力品である航空機エンジン用鑄造品（ギアボックス）などの工程改善に取り組み、航空機用砂型鑄造品の業績拡大に大きく貢献した。特に、複雑なオイル通路を有するギアボックスにおいて、オイル通路内の鑄バリ除去を可能にする特殊工具の実用化や、オイル通路内を不活性ガス雰囲気維持し溶接欠陥を低減する溶接方法など、ギアボックス製造に欠かせない技術、技能に大きく貢献した。また、活性が高く燃えやすいマグネシウム合金において、設備面、作業面での安全対策に尽力し、作業者が安心して作業できる職場改善を進め、マグネシウム製ギアボックスの安定量産に大きく貢献した。現在、動画手順書の導入や、3Dスキャナーによる数値の見える化など、技能継承にデジタルツールを積極的に活用し、勘やコツに頼らない新しい試みを始めている。また、マグネシウム取扱いにおける安全対策の形骸化を防止するために、計画的に技能訓練や作業標準の更新などを進め、マグネシウム鑄造の安全向上、若手作業者の育成に励み、現場の活性化に尽力している。



福島 和弘 君
(株式会社UACJ)

福島 和弘 君は、1987年にスカイアルミニウム株式会社（現 株式会社UACJ）に入社した。入社以来、原料職場のオペレーターとして交替勤務に入り、日々の生産を支えてきた。そして35年間にわたり、一貫してアルミニウム圧延用スラブ製造に係る原料、溶解の業務に従事している。また生産計画と最適な原料配合にこだわり、職場全体の生産および原料費のコストダウンに貢献した。会社統合に伴う生産品目変化にも対応し、激増した熱交材スクラップを最大限配合するスキームを構築した。2016年からは原料の技術スタッフとして、本社の購買部門やスクラップ問屋と密に連携し、原料費のコストダウンに成功している。海外工場（タイ）における現地従業員の指導にも従事し、アルミニウム原料の考え方とそのスキルを伝えた。優れた指導力により、おおむね現地従業員のみで原料関係業務を運営できるまでに至った。現在はリサイクル率向上によるCO₂削減活動の中心的役割を担っており、後進の管理監督候補者育成にも尽力している。